

令和 7 年度事業報告書

公益財団法人徳川黎明会

I. 管理部門

令和 7 年度は、美術館が創立 90 周年の節目の年にあたり、記念事業として多数の大型展が開催されたことから、コロナ禍の期間を経て久しぶりに来館者数が 25 万人を超え、29 万人強となった。これに加え、収益事業としての関連グッズの売れ行きも好調で、美術館の公益事業・収益事業は共に収益増を確保することができた。管理部門としては、一層堅実な基盤の上に今後の法人運営を図る観点から、ガバナンス強化を含め、下記 5. の通り合計 12 件の各種規程類の整備に注力し、整備を図った。

1. 業務執行体制

規程類整備の一環として、これまで規程のなかった総務部の業務運用規則を新たに制定し、総務部を財団全体の調整部門と位置づけると共に、規程の下で業務運用を行うようにした。

2. 寄附公募活動

本年度も、引き続き、美術館、研究所と連携し、寄附を広く募った。

3. 監事監査

令和 7 年度の業務・会計等監査について、下記のとおり執り行われた。

日時： 令和 8 年 5 月 27 日／15 時 00 分から 15 時 55 分まで

場所： 当財団／本部会議室

対象： 業務、会計、理事の職務執行

4. 理事会・評議員会

(1) 理事会

・ 第 1 回（定時／対面）

日時： 令和 7 年 6 月 6 日／13 時 00 分から 14 時 00 分まで

場所： 当財団／本部会議室

議案： 第 1 号議案／令和 6 年度事業報告について

第 2 号議案／令和 6 年度収支決算について

第 3 号議案／令和 7 年度定時評議員会開催について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

・ 第 2 回（臨時／書面）

日時： 令和 7 年 7 月 1 日

議案： 第 1 号議案／決議の省略について

第 2 号議案／文化財（美術作品）の受贈および基本財産（受贈美術品）への組み入れについて

第 3 号議案／評議員会への提議について

第 4 号議案／決議日について

結果： 全議案について、理事一同異議なく議決された（書面によるみなし決議）。

・ 第 3 回（定時／対面）

日時： 令和 8 年 3 月 17 日／13 時 00 分から 14 時 17 分まで

場所： 当財団／本部会議室

議案： 第 1 号議案／令和 8 年度事業計画について

第 2 号議案／令和 8 年度収支予算について

第 3 号議案／令和 8 年度資金調達及び設備投資の見込みについて

第 4 号議案／令和 8 年度「事業の概要」について

第5号議案／黎明会規程と業務章程の統合による新「組織規程」の制定について

第6号議案／相談役の退任について

結果： 全議案について、出席理事一同異議なく議決された。

(2) 評議員会

・ 第1回（定時／対面）

日時： 令和7年6月24日／15時00分から16時33分まで

場所： 当財団／本部会議室

議案： 第1号議案／令和6年度収支決算について

結果： 全議案について、出席評議員一同異議なく議決された。

・ 第2回（臨時／書面）

日時： 令和7年7月16日

議案： 第1号議案／決議の省略について

第2号議案／文化財（美術作品）の受贈および基本財産（受贈美術品）への組み入れについて

第3号議案／決議日について

結果： 全議案について、評議員一同異議なく議決された（書面によるみなし決議）。

5. 法人のガバナンス体制充実のための各種規程類の整備

(1) 令和7年4月施行分の諸規程改定

(ア) 職員・雇員・臨時雇員それぞれに適用する就業規則の制定：従来単一の「従業員就業規則」の下に、職員、雇員、臨時雇員に対して各々適用が異なり得る規則が混在する形となっていたが、これを職員、雇員、臨時雇員それぞれの就業規則として分離することにより、条項によって適用関係が明確でなかった部分も明確化し、あわせて従来規定のなかった時間単位の有給休暇取得や副業・兼業に関する規定等も新設した。

(イ) 給与規程の改定：旧課長職～部長代理の職位にある者に対し、従来の給与規程上の「管理手当」の名称を「固定残業手当」とし改めてその性格を明確化した上で、これを超過した時間外勤務分の残業手当を支給するよう、規程を改定した。また給与規程別表として基本給表および退職金基準率表を明示するとともに、これに先立ち平成6年度分として行った給与水準の改善（賃金の増額）を取り入れた基本給表として全組織内に周知を図った。

(ウ) 育児・介護休業規程の改定：令和1年以降、改定がおこなわれてこなかったが、この間累次法令改正が行われ、令和7年4月にも規程の改定が義務的となる法改正が施行される予定であることをふまえ、法令に即した規程の改定を行った。

以上の規程改正については平成7年度3月までに従業員代表からの意見書の提出を受け、所管官公署に届出を行うとともに令和7年3月の定時理事会に報告し、令和7年4月1日より施行した。

(2) 令和7年6月施行分の規程改定

(ア) 給与規程の改正：従来の「住居手当」につき公平性の観点から廃止し、新たに「職務手当」を新設した。

この改定について、従業員代表からの意見書の提出を受け、所管官公署に届出を行とともに令和7年6月の定時理事会に報告し、同月より施行した。

(3) 令和8年4月施行分の諸規程改定

(ア) 組織規程の制定：従来、定款の下に法人組織上の基本規程となってきた「黎明会規程」および「業務章程」を見直し統合して、新たに「公益財団法人徳川黎明会 組織規程」を制定した。

主な内容は、① 理事会・評議員会・代表理事等に関する定款との重複の削除、② 従来の職階制度（参事・主事・書記等）を廃止し、職位および給与規程上の等級・号俸制度に変更、③ 総務部・美術館・研究所の所掌業務、各々の責任者とその職責・権限等に関する規程等を整理統合、

- ④ 総務部・美術館・研究所における業務従事者についての通則を整備、⑤ 総務部・美術館・研究所各々の内部組織、関連規程は代表理事が別に定める旨規定し一定の柔軟性を確保、等である。
- (イ) これとの整合性を図るため、①「総務部業務運用規則」、②「徳川美術館業務運用規則」、③「徳川林政史研究所業務運用規則」、および④「徳川林政史研究所所管史料等閲覧取扱規則」を整備（新設又は従来規則を改定）した。
- (ウ) また組織規程との整合性を図るため、職員就業規則における定年規程、および出張旅費規程、定年退職者再雇用規程、給与規程、についても改定をおこなった。
- (エ) さらに、育児・介護休業規程について、従来規程が保険会社との契約に基づく死亡弔慰金および高度障害見舞金を取り込んでいなかった不備を是正し、併せて同契約による入院見舞金を新設するための改定を行った。

上記（ウ）および（エ）の規程改定について、従業員代表の意見書の提出を求めた上、所轄労働基準監督署に届出を行った。上記（ア）については上記４．（１）記載の令和８年３月の定時理事会において承認の決議を得、また同理事会において上記（イ）、（ウ）、（エ）の諸規程についても報告を行った上、これら（ア）～（エ）のすべての改定を令和８年４月１日より施行した。

6. 官庁申請・届出・報告

・内閣府関係

下記について、電子申請システム（公益 Information システム）経由にて提出・報告した。

令和７年６月 令和６年度事業報告および収支決算

令和８年３月 令和８年度事業計画および収支予算

・労務関係等

令和８年３月 36 協定書を池袋労働基準監督署および名古屋北労働基準監督署に届出た。

その他、上記５．（２）および（３）のとおり諸規程について、池袋労働基準監督署および名古屋北労働基準監督署に届出た。

7. 役職員等の状況（令和８年３月３１日現在）

（１）役員等

評議員 7 名、役員 8 名（合計 15 名）

①評議員

職位	氏名	現職
評議員会長	田中 秀隆	(公財)三徳庵理事長
評議員	小林 央	富国生命保険(相)執行役員法人営業部長
評議員	千葉 功	(学)学習院学習院大学副学長・文学部史学科教授
評議員	濱本 英輔	(株)ハーフ・センチュリー・モア顧問
評議員	原 俊夫	(公財)アルカンシエール美術財団理事長
評議員	松尾 美恵子	(学)学習院学習院女子大学名誉教授
評議員	室瀬 和美	(株)目白漆芸文化財研究所顧問

②理事

職位	氏名	現職
代表理事（会長）	徳川 義崇	(公財)徳川黎明会徳川美術館館長・八雲産業(株)代表取締役
専務理事	市橋 康吉	(公財)徳川黎明会総務部部长・(公財)徳川黎明

		会徳川美術館副館長
常務理事	深井 雅海	(公財)徳川黎明会徳川林政史研究所所長
理事	小林 忠	(学)学習院学習院大学名誉教授
理事	徳川 斉正	(公財)徳川ミュージアム理事長
理事	前田 利宜	(株)イノダコーヒ代表取締役社長・(公財)前田育徳会理事

③監事

職位	氏名	現職
監事	降旗 京二	降旗公認会計士事務所所長
監事	松平 頼昌	(学)本郷学園理事長

(2) 職員等

区分	常勤	非常勤	計
職員	20	0	20
雇員	7	0	7
嘱託	5	0	5
臨時	0	15	15
派遣	2	0	2
合計	34	15	49

(3) 協力者等

区分	常勤	非常勤	計
参与	0	14	14
特任研究員	0	18	18
非常勤研究員	0	7	7
非常勤研究生	0	12	12
非常勤学芸員	0	2	2
合計	0	53	53

※ 統計上、雇用関係を優先し、兼務発令・委嘱等を受ける者については、主たる職位に計上している。

Ⅱ. 公益目的事業

〔公益事業 1〕 美術館の運営事業（徳川美術館）

令和 7 年度は、徳川美術館開館 90 周年の節目にあたり、これを記念した各種展覧会及び関連事業を積極的に展開した。その結果、年間来館者数は事業計画に掲げた 25 万人を上回る 29 万 8 千人強（計画比 119%）を記録し、当初計画を大きく上回った。来館者数増加の主な要因としては、まず、本年が名古屋において 10 年ぶりとなる「国宝 源氏物語絵巻」の全巻公開の機会と重なったことが挙げられる。11 月から 12 月にかけて開催したこの特別展においては、従前より公開を待ち望んでいた多数の来館者で賑わい、顕著な集客効果をもたらした。また、6 月から 9 月にかけて開催した夏季特別展「時をかける名刀」においては、人気オンラインゲームとのコラボレーションによるロングラン企画としたことが奏功し、国内のみならず海外からの来館者も含め、幅広い層の集客につながった。さらに、年間を通じて尾張徳川家伝来の優れたコレクションを体系的かつ継続的に公開したことも、通年での来館者数の底上げに寄与した。具体的には、春季特別展「国宝 初音の調度」（4 月～6 月）においては「初音の調度」全 70 件を一括公開し、また秋季特別展「尾張徳川家 名品のすべて」（9 月～11 月）においては、同じく開設 90 周年を迎えた蓬左文庫の所蔵品と併せ、重要文化財を含む尾張徳川家伝来の名品を集中的に展示した。これら一連の開館 90 周年記念事業については、各種メディアによる報道・取材等を通じて広く社会的関心を喚起するとともに、ミュージアムショップにおけるプレミアム商品の好調な販売（詳細は収益事業報告にて記載）にもつながり、事業全体として高い波及効果を生んだ。

以上のとおり、本年度は当館の収蔵品の価値と展覧会の魅力を広く発信することができた一年となった。

今後は、本年度に得られた成果及び来館者層の拡大を踏まえ、次年度以降においても一層の事業充実と来館者サービスの向上に努めることとしている。

1. 美術品の展示・公開・保存・修理・収集

（1）展示・公開

事業計画に基づき、以下の展示・公開を行った。これにより（ア）（イ）（ウ）に記載した展示における令和 7 年度の来館者数合計は 298,464 名であった。

（ア）名品コレクション展示室（新館第 1～第 5 展示室）

「名品コレクション展」として年間に 4 回の大展示替えを行ったほか、約 1 か月毎に部分展示替えを実施した。特別展・企画展開催期間を除く新館展示室のみの開館日の来館者数は 9,518 名であった。

期間 1（a. 3 月 25 日～4 月 22 日	b. 4 月 23 日～5 月 20 日	c. 5 月 21 日～6 月 22 日）
期間 2（a. 6 月 24 日～7 月 23 日	b. 7 月 24 日～8 月 19 日	c. 8 月 20 日～9 月 7 日）
期間 3（a. 9 月 9 日～10 月 13 日	b. 10 月 15 日～11 月 9 日	c. 11 月 11 日～12 月 14 日）
期間 4（a. 1 月 4 日～1 月 28 日	b. 1 月 29 日～2 月 25 日	c. 2 月 26 日～3 月 22 日）

（イ）特別展（本館第 7～第 9 展示室）

事業計画に基づき以下の特別展を開催した。特別展への来館者数合計は 288,946 名であった。

- ① 徳川美術館開館 90 周年記念 特別展「国宝 初音の調度」 4 月 12 日～6 月 8 日
中日新聞社／日本経済新聞社／NHK 名古屋放送局共催
来館者数 計 51,321 名
- ② 徳川美術館・蓬左文庫開館 90 周年記念 夏季特別展「時をかける名刀」 6 月 14 日～9 月 7 日
名古屋市蓬左文庫との共催展、中日新聞社／日本経済新聞社共催、特別協力・足利市／公益財団法人足利市民文化財団、協力・ニトロプラス／キテラス
来館者数 計 111,580 名
- ③ 徳川美術館・蓬左文庫開館 90 周年記念 秋季特別展「尾張徳川家 名品のすべて」 9 月 13 日～

11月9日

名古屋市蓬左文庫との共催展、中日新聞社／日本経済新聞社／NHK 名古屋放送局共催

来館者数 計 39,183 名

- ④ 徳川美術館開館 90 周年記念 特別展「国宝 源氏物語絵巻」 11 月 15 日～12 月 7 日

中日新聞社／日本経済新聞社／毎日新聞社／NHK 名古屋放送局共催

来館者数 計 43,961 名

- ⑤ 特別展「尾張徳川家の雛まつり」 2 月 7 日～4 月 5 日

中日新聞社共催

来館者数 計 29,499 名（3 月 31 日まで）、32,873 名（4 月 5 日まで）

(ウ) 企画展（名古屋市蓬左文庫展示室）

名古屋市との協力の下、事業計画に基づき以下の企画展を開催した。d・e の展覧会の来館者数は下掲の通りであった。①②③⑥の各展覧会は上掲(イ)①②③⑤と同時開催または同一企画のため、来館者数は同一である。

- ① 企画展「千代姫の華麗なる生涯」 4 月 12 日～6 月 8 日 上掲（イ）①と同時開催

- ② 徳川美術館・蓬左文庫 開館 90 周年記念 夏季特別展「時をかける名刀」 6 月 14 日～9 月 7 日

上掲（イ）②と同一企画

- ③ 徳川美術館・蓬左文庫開館 90 周年記念 秋季特別展「尾張徳川家 名品のすべて」 9 月 13 日～

11 月 9 日 上掲（イ）③と同一企画

- ④ 企画展「尾張家臣団」 11 月 15 日～12 月 14 日 徳川林政史研究所共催（11 月 15 日～12 月 7 日

の間は、上掲（イ）④と同時開催）、来館者数 計 46,787 名（12/2～15 の間は 2,826 名）

- ⑤ 企画展「日本の神々 降臨」 1 月 4 日～2 月 1 日

毎日新聞社共催

来館者数 計 10,576 名

- ⑥ 企画展 金沢文庫・蓬左文庫交流展「金沢文庫本-流離(さすら)う本の物語-

神奈川県立金沢文庫共催 2 月 7 日～4 月 5 日 上掲（イ）⑤と同時開催

(エ) 特別公開

「千利休 泪の茶杓」 2 月 21 日～3 月 1 日（第 2 展示室）

(オ) 特別観覧

- ① 研究者等特別観覧

大学等学術・研究機関、外部美術館等からの要請に応じ、特別観覧を実施した（全 25 件）。

- ② 開館 90 周年記念 令和 7 年度 黄金茶会（会場：餘芳軒・山の茶屋・宝善亭）

10 月～11 月にかけて 9 日間開催、2,008 名参加。

(カ) 夜間開館および休館日貸切開館

- ①徳川ナイトミュージアム PREMIUM～華燭の宴～

参加予約制にて 4 月に実施。俳優内藤剛志氏によるトークショー、立食の提供、学芸員による展示解説、オリジナルのお土産等

- ②徳川ナイトミュージアム

参加予約制にて「時をかける名刀」展期間中、6 月に 4 日間、7 月に 8 日間、8 月に 11 日間実施

- ③休館日貸切開館

11 月に 251 名の団体を受け入れ

(キ) 他館主催展覧会への収蔵品出陳

メトロポリタン美術館「Recasting the Past: The Art of Chinese Bronzes, 1100-1900」展（2 月 28 日～9 月 28 日）、東京国立博物館「江戸☆大奥」展（7 月 19 日～9 月 21 日）、京都国立博物館「宋元仏画-蒼海(うみ)を越えたほとけたち」展（9 月 20 日～11 月 16 日）など他館主催の展覧会に対し延べ 11 館、延べ 34 件の収蔵品（うち寄託品 1 件を含む）を出陳。なお岐阜県博物館プレ 50 周年記

念・特別展「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」（10月10日～12月9日）を予定したが令和8年度に開催を延期した。

（2）修理・保存・収集

（ア）受贈

① 以下の普通美術品を受贈。

・衣冠単（夏・冬）徳川義知着用	一具	・袴袴（濃半袴）徳川正子着用	一具
・黒塗葵紋付小簞笥	一基	・黒塗葵紋散衿簞笥	一基
・梨子地葵紋付蜀江文蒔絵櫛箱	一合	・銀牡丹唐草文銚子	三個
・黒塗葵紋蒔絵重箱	一合	・古代錦裂	一括
・サーベル	一振	・革製サーベル用袋	一点
・書画	一式八枚	・雀小弓	一具
・手芸用道具箱	一合	・ワイングラスセット	一具
・秋野図屏風	六曲一双	・一行書「不敢為天下之先」徳川慶喜筆	一幅
・銀葵紋散唐草文皿	一枚	・村梨子地葵紋散若松唐草文蒔絵重箱	一組
・合貝	一合	・山水図 伝景徐周麟賛・伝狩野正信筆	一幅
・徳川家雛道具(無印)	六件		

② 以下の受贈美術品を基本財産に組み入れ。

・徳川義親夫人雛道具(梅印)	六十一件	・徳川義知夫人雛道具(牡丹印)	四十九件
・徳川義宣夫人雛道具(鈴印)	七十五件	・徳川家雛道具(桜印) 大炊御門絹子所用	二件
・徳川家雛道具(無印)	九件		

（イ）修理

以下の修理を実施し、①については国宝重要文化財等保存・活用事業費（国庫補助美術工芸品保存修理事業）および文化財保存事業費（愛知県文化財保存事業）による助成を受けた。修理に伴う自己負担分経費については、活動支援基金を充当した。

① 基本美術品（計1件）

国宝 婚礼調度類〔徳川光友夫人千代姫所用〕（「初音の調度」）初音蒔絵 祝の枕 一對

② 普通美術品（計2件）

・葵紋縁口釜 一口、・金茶地牡丹文金襴袷狩衣 一領

③ 寄託品（計1件）

兜（南蛮胴具足の内） 一頭

④ 展覧会借用作品（計1件）

梨子地青貝亀甲文散脇指拵（「脇指 銘 来国光」附属） 一口 個人蔵（損害保険適用）

（ウ）収蔵品撮影（館内）

各展覧会のための広報および図録作成に必要な撮影を実施(合計 303 カット)。

2. 調査・研究

事業計画に基づき、学芸部において、以下の調査・研究を行い、また研究成果を公開・公刊した。

（1）美術館における調査・研究

①館蔵品調査（昭和63年度）、②尾張徳川家御道具帳のデータベース化（平成27年度）、③尾張徳川家関係寺社蔵品調査、④幕末明治浮世絵の研究（令和2年度）、⑤尾張藩御用絵師の研究（令和2年度）、⑥大名家における絵師の絵画活動についての研究（平成6年度）、⑦尾張における画家の活動について一田中訥言を中心に一（平成11年度）、⑧武家女性の生活史の研究（平成29年度）、⑨尾張徳川家旧蔵の古典籍および文書について（平成8年度）、⑩尾張徳川家に関連する仏教絵画の研究（令和2年度）、⑪近世大名文化における刀剣の需要史的研究（令和7年度）、⑫尾張徳川家伝来の古筆に関する研究（令和7年度）、⑬刀剣の造形的特質に関する研究（令和7年度）、⑭唐絵の受容史的研究（令和5年度）、⑮

茶道史の研究（令和2年度）、⑯尾張徳川家に関する古典籍および古文書の研究（令和3年度）、⑰刀装具に関する研究（令和4年度）、⑱岩佐派の研究（令和4年度）、⑲尾張徳川家における演能の研究（令和6年度）（括弧内は、開始年度）

（2）徳川林政史研究所との連携による研究（前年度より継続）

- ① 尾張徳川家歴代藩主に関する史料調査・研究、② 尾張徳川家関連史料に関する基礎調査・研究
- ③ その他、展示・教育普及事業への協力および研究交流の促進

（3）大名道具収蔵館研究会（平成4年度より継続）

本年度は彦根城博物館が幹事館と会場を担当、オンラインと対面方式の併用で開催（2月）。

（4）収蔵品データベースの整備（前年度より継続）

- ① 調書作成・入力、②写真データ作成・入力、③展示作品リスト・キャプション用データ整備・入力・リスト・キャプションの作成、④作品の写真撮影、⑤作品情報のデータベース化、等

（5）研究用図書類の整備

（ア）図書（購入計16冊、受贈計8冊）

- ① 展覧会や収蔵品研究のための参考図書の他、『史料纂集 古記録編』（八木書店）などを購入。
- ② 『『幻の源氏物語絵巻』をもとめて』（思文閣出版）、『いくさと物語の中世 第二集』（汲古書院）などを受贈。

（イ）雑誌（購入計58冊、受贈多数）

- ① 『國華』（國華社）、『史学雑誌』（史学会）、『仏教芸術』（中央公論美術出版）など58冊を購入。
- ② 『美術研究』（東京文化財研究所）、『MUSEUM』（東京国立博物館）、『茶の湯文化学』（茶の湯文化学会）などを受贈。

（6）研究成果の公開・公刊

（ア）定期研究発表会

- ① 「記録に残された尾張徳川家の「祝儀能」 並木昌史（学芸員、マネージャー） 6月7日（第86回）
- ② 「維君の婚礼と婚礼調度」 吉川美穂（学芸部部長代理） 3月21日（第87回）

（イ）図録、研究紀要等

展覧会図録（冊子）の作成・頒布

- ① 『大解剖 国宝 初音の調度』（特別展「国宝 初音の調度」図録）
- ② 『時をかける名刀』（夏季特別展「時をかける名刀」図録）
- ③ 『徳川美術館 新名品選』（秋季特別展「尾張徳川家 名品のすべて」図録）
- ④ 『国宝 源氏物語絵巻』（特別展「国宝 源氏物語絵巻」図録）
- ⑤ 『尾張家臣団』（企画展「尾張家臣団」図録）
- ⑥ 『金沢文庫本一流離う本の物語ー』（企画展「金沢文庫本一流離う本の物語ー」図録）
- ⑦ 『尾張徳川家ゆかりの美濃刀』（岐阜県博物館プレ50周年記念・特別展「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」図録）

※ただし「尾張家臣団」展図録は徳川林政史研究所、「金沢文庫本」展図録は神奈川県立金沢文庫、尾張徳川家ゆかりの美濃刀」展図録は岐阜県博物館が作成。

（ウ）英文リーフレットの作成

展覧会を紹介する英文リーフレットを作成・配布・ホームページでの公開。

（エ）『金鯢叢書』第53輯（「研究紀要」第60号）の編集・刊行

（オ）美術館だより『葵』第134号～137号の作成・配布、ホームページでの公開（会員ほか限定）（年度内4回／4、7、9、1月）

3. 教育・普及

以下の諸事業を実施した。

(1) 特別展記念講演会・記念講座

- ①「国宝 初音の調度」記念講演「国宝 初音蒔絵書棚二基・胡蝶蒔絵書棚一基の修復と科学的な分析で判明した新知見」大西智洋氏(合同会社大西漆芸修復スタジオ代表) 4月
- ②「尾張徳川家 名品のすべて」館長特別講演「文化をつなぐー徳川美術館の90年ー」徳川義崇(館長) 9月
- ③「尾張徳川家 名品のすべて」記念講演「欧米諸国で開催した徳川美術館コレクション展と昭和62年のリニューアルオープン秘話」山本泰一(参与) 9月
- ④「尾張徳川家 名品のすべて」記念講演「徳川美術館の思い出ばなし」四辻秀紀(特任学芸顧問) 9月
- ⑤「国宝 源氏物語絵巻」記念講演「光源氏の自嘲ー源氏物語絵巻 柏木(三)の静謐ー」山本淳子氏(京都先端科学大学 国際学術研究院 教授) 11月
- ⑥「金沢文庫本」記念講演「書物とレガリアー金沢北条氏から尾張徳川家へ、金沢文庫本の歩みー」貫井裕恵氏(神奈川県立金沢文庫 学芸員) 2月

(2) 土曜講座「大名の生活と文化」

- ①「将軍姫君・千代姫の生涯」吉川美穂(学芸部部長代理) 4月
- ②「蒔絵師・幸阿弥家と初音の調度」板谷寿美(学芸員) 5月
- ③「名刀を輝かせるエピソード」安藤香織(学芸員、マネージャー) 8月
- ④「道具帳から辿る道」加藤祥平(学芸員) 9月
- ⑤「蓬左文庫 名品のすべて？」星子桃子氏(名古屋市蓬左文庫学芸員) 9月
- ⑥「尾張家伝来 江戸絵画の華」長谷川円(学芸員) 10月
- ⑦「徳川義直と日本の神々」並木昌史(学芸員、マネージャー) 1月
- ⑧「能を識(し)る」野村弥生(学芸員) 2月
- ⑨「徳川美術館の90年」香山里絵(非常勤学芸員) 3月

(3) 徳川林政史研究所による江戸学講座「尾張家重臣たちの実像」

- ①「尾張家臣団の概要」深井雅海(所長) 12月
- ②「尾張家重臣と将軍家」萱場真仁(研究員、マネージャー) 1月
- ③「尾張家臣が残した記録を読む」萱田寛也(研究員) 1月
- ④「近代尾張旧藩士族の群像」藤田英昭(研究員、マネージャー) 2月

(4) 博物館実習 5日間実施(9月～10月および1月)

(5) ボランティア研修

- ① 名品コレクション展解説研修 3回実施(9、1、3月)
- ② 企画展特別展の解説研修 6回実施(4、6、9、11、1、2月)
- ③ 岐阜・関鍛冶伝承館ほか見学会 1回実施(11月)

(6) ギャラリートーク

「日本の神々 降臨」並木昌史(学芸員、マネージャー) 1月

(7) 夏休み子ども企画「わくわく探検シートー刀剣を見る知る」

7月21日～8月31日 小中生に無料配布(2,534部)

(8) 団体対応体験プログラム 1件

(9) 展覧会ごとに展示作品リスト及び背景解説等のパネルや資料を作成し、ホームページ上にも展覧会・作品解説を掲載。また展覧会ごとに英文ハンドアウトを適宜作成(QRコード経由のWEB版を含む)。

(10) 小学校・中学校・高校・大学の生徒・学生向け解説、質問、体験を含めた学習プログラム

- ① 美術館解説：幼稚園1校(16名)・中学校5校(計26名)・高校3校(計184名)・大学9校(計346名)
- ② 模造刀・火縄銃・貝あわせなど体験学習と館内見学：小学校1校(計93名)・中学校4校(69名)・高校2校(計70名)・大学3校(計38名)
- ③ オンライン授業：高校1校(160名)

(1 1) 古美術相談会

随時、作品持込・写真郵送・メール等による相談、計 10 件。

(1 2) 出講・受嘱

① 出講：学芸員ほか計 10 名が大学ほかの講座等合計 26 件に出講。

② 受嘱：学芸員ほか計 6 名が研究機関等合計 10 件の委嘱を受け、必要業務を遂行。

(1 3) 館長講演活動

① 特別講演「文化をつなぐー徳川美術館の 90 年ー」（於徳川美術館、9 月）

② 令和 7 年度「企業と大学との新春交歓の集い」での講演（中部学生就職連絡協議会連合会主催、1 月）

4. 管理

(1) 観覧料等

オンラインチケットの利用拡大に加え、徳川ナイトミュージアム・徳川茶会等美術館主催イベントについても同様にオンライン販売を行い、参加希望者の利便性向上と事務（販売管理・顧客管理等）の効率化を図った。観覧料については、令和七年度中は従来観覧料を維持したが、近年の諸物価高騰による経費増大をふまえ、次年度より観覧料の改定をおこなうべく、必要な各方面との調整と準備を行った。

(2) 広報

(ア) 令和 7 年度のメディアによる取材件数は以下のとおりであった。

展覧会等	新聞	テレビ・ラジオ	雑誌・WEB 等
国宝初音の調度	21	4	9
時をかける名刀	25	3	12
尾張徳川家名品のすべて	17	1	8
国宝源氏物語絵巻	15	3	11
尾張家臣団	2	1	4
日本の神々降臨	11	1	6
尾張徳川家の雛まつり	11	2	19
金沢文庫	2		1
その他		3	6
合計	104	18	76

(イ) 有料広告として以下の掲示・掲載を行った。

①名古屋アートニュース（隔月）、②大曽根駅南口看板（常設）、③大曽根駅北口看板（常設）、④電柱看板（常設）、⑤名古屋コンシェルジュバナー広告、⑥リスティング広告、⑦完全制覇中部北陸版 1 頁広告（台湾・香港発行）、

(ウ) ホームページ、Facebook、X (Twitter)、インスタグラムを運用

(エ) Google マイビジネスを整備

(オ) 中京テレビ・アート番組「ムジナバケール」への協力（後掲（4）（イ））では、6 月～翌 3 月の毎週金曜深夜にレギュラー番組が放送されたことにより、当館の知名度向上につながった。

(3) 営業

(ア) 団体利用促進のため以下を行った。

① 旅行会社への営業活動：名古屋市内商談会、ツーリズム EXP0 愛知、東京・大阪セールス等への参加

② MICE 誘客の働きかけ、③ 名古屋観光コンベンションビューローとの連携、④ 大学メンバーシップ対象校へのポスターチラシ配布、等

(イ) 個人来館者利用促進のため以下を行った。

① JR 東海ツアーズ「ずらし旅」「EX 旅のコンテンツポータル」への参画による遠方在住や個人の旅行

者の集客、② 前売券の販売促進：百貨店友の会 3 店舗（高島屋・名鉄・大丸松坂屋）での販売、③ 各種スタンプラリーの実施（外部団体と連携したものを含む）、④ 「ひなまつりスタンプラリー」（後掲（4）（ア））、等

（ウ）閉館後・休館日等における時間外の利用誘致

徳川ナイトミュージアム PREMIUM の他、団体向け夜間貸切を実施した（前掲）。

（4）協賛事業・事業協力・補助金事業等

（ア）愛知県内の博物館・資料館などをめぐる「ひなまつりスタンプラリー」2 月 3 日～3 月 11 日に参加。

（イ）中京テレビ開局 55 周年記念事業への協力 徳川美術館所蔵品に着想を得た現代のクリエイターが作品を製作する過程を追った番組製作に協力。

（5）徳川美術館メンバーシップ・大学メンバーシップ（会員制度）等

（ア）徳川美術館メンバーシップ

会員制度「徳川美術館メンバーシップ」においては、以下の各項の優待を行った。

① 1 年間の無料入館、② 各企画展・特別展の特別内覧会の開催（図録がある場合無料配布）（パートナー会員を除く）、③ 各種印刷物の送付、④ ショップ商品等の割引、⑤ 他館との連携による各々の会員向け相互観覧料割引（五島美術館ほか 4 館）。⑥ 開館 90 周年記念式典への招待（パートナーを除く）および、記念品（スケジュール帳）の贈呈。

会員数は以下のとおりであった（3 月末時点）。

種別	令和 7 年度入会・継続	令和 6 年度
個人・パートナー	562 名	471 名
個人・ゴールド	196 名	164 名
個人・プラチナ	9 組 18 名	4 組 8 名
計	776 名	643 名
法人・A	37 法人	31 法人
法人・B	2 法人	2 法人
法人・S	0	0
計	39 法人	33 法人

（イ）大学メンバーシップ

会員登録校は以下のとおりであり、24 の学校法人が加盟している（令和 8 年 3 月現在）。

愛知学院大学、愛知学院大学短期大学部、愛知学院大学歯科技工専門学校、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、桜花学園大学、名古屋短期大学、金城学院大学※、椋山女学園大学※、中京大学、中部大学、東海学園大学、同朋大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学、名古屋外国語大学、菱野幼稚園、名古屋ファッション専門学校、名古屋栄養専門学校、名古屋製菓専門学校、名古屋芸術大学、名古屋経済大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、名古屋造形大学※、名古屋大学、名古屋文化短期大学、名古屋ファッションビューティー専門学校、南山大学、名城大学※、愛知教育大学※、愛知大学（※は、学生のみを対象とした会員）

対象大学の学生と教職員の無料入館（一部学生のための例外校あり）及び、対象大学への展覧会ポスター・ちらし、イベント案内等の配布・掲示依頼を行った。

（ウ）ボランティアの会

① 会員数推移は以下のとおりであった。

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
会員数	221 名	229 名	229 名	216 名	226 名

② 第 14 期ボランティア募集・採用を実施（令和 8 年 4 月より 28 名が活動を開始）。

③ 解説業務実績は、ロビー解説参加者 17,973 名、団体解説：28 件 960 名。

④ ボランティア見学会実施 日程：11 月 8 日 参加人数：35 名

⑤ ボランティア懇親会実施 日程：3 月 7 日 参加人数：115 名

(6) 徳川美術館運営懇話会

第 32 回目を、愛知県知事、名古屋市長他参加のもと、10 月 3 日当館にて開催した。

(7) 徳川園各施設連絡調整会議

月次定例会議に加え、各施設の本部より参加を得て全体会議を 2 月 13 日に開催した。

(8) 施設・設備の保守点検・営繕

美術館敷地内の危険木伐採工事や美術館敷地東側の境界塀更新工事（継続案件）、委託事業者による館内設備の定期メンテナンスなどを実施した。

(9) 活動支援基金

① 寄附金受付業務

前年度に引き続き、徳川美術館の実施事業を対象にした募金活動を行った。結果として、今年度は 10,783,180 円（法人 5 件:930,000 円、個人 75 件:2,488,000 円、募金箱:1,070,939 円、エポスカード寄附 6,294,241 円）の寄附金を受領した。

② 感謝状の贈呈

活動支援基金の高額寄附者（個人 30 口以上、法人 10 口以上）である個人 1 名に対して、感謝状を贈呈した。

[公益事業 2] 研究所の調査・研究・教育・普及事業（徳川林政史研究所）

令和 7 年度は、所蔵史料の整理・公開作業を進めるなどの通常業務を遂行しながら、研究の二本柱である尾張藩研究と林政史研究を推進した。尾張藩研究に関しては、尾張家が大名家・寺社等に贈った品物を書き上げた「儀物軌式」を八木書店の史料纂集として刊行した。併せて当主の事蹟をまとめた「事蹟録」のデータベースをもとに若手研究者を中心とした勉強会を開催し、史料編纂に向けた作業に着手した。林政史研究については、引き続き『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化』を 2 冊刊行するとともに、尾張藩御山守の史料集『明和八年 御山方御用_并諸事日記』を翻刻・刊行し、成果を積み重ねた。また、徳川美術館と連携した事業として企画展『尾張家臣団』を開催した（会期：11 月 15 日～12 月 14 日）。特別展「国宝 源氏物語絵巻」と同時開催であったこともあり、4 万人以上の入館者を得た。編集・刊行した図録は 500 冊以上の売り上げがあった。若手研究者の育成に関しては、所蔵史料整理や出張調査への参加を促すとともに、定期的に研究会・勉強会を開催するなどして調査・研究指導に当たった。他機関と連携した史料集刊行や古文書講座への出講は、若手研究者の協力を得た上で実施した普及活動の成果といえる。

なお、当研究所の活動に対して、260,000 円の寄付が寄せられ、活動支援基金として積み立てた。

1. 調査・研究

（1）研究所における研究

① 名古屋城の構造と儀礼に関する研究、② 近世・近代の尾張徳川家に関する研究、③ 徳川林政史研究所の活動に関する史学的研究、④ 近世の地域社会と森林利用に関する研究、⑤ 近世山村の生活文化に関する研究、⑥ 関東平野における沼の資源利用に関する研究、⑦ 近世山村における新開事業に関する研究

（2）徳川美術館との連携

① 江戸学講座へ講師派遣：全 4 回講師を派遣し、教育普及にあたりとともに研究交流をはかった。
② その他協力・研究交流の促進：徳川美術館との連携企画として、企画展『尾張家臣団』を開催した。関連図書として『尾張家臣団』を編集・刊行し、徳川美術館ミュージアムショップで販売した。

（3）研究成果の公開・公刊

（ア）研究会の開催

① 8 月 1 日 上廣倫理財団 UF ホール（対面・オンライン併用）

享保期における徳川家宣正妻天英院と弘前藩津軽家一贈答行為を中心に一	加藤 菜穂子
高岡の森弘前藩歴史館紹介一4 代津軽信政と高照神社の宝物を事例に一	池ノ谷 匡祐
株仲間解散期における職人集団	小松 和史
天保期大坂における咸宜園教育	布川 寛大
明治期秋田県における国有林の施業案編成と地域社会	芳賀 和樹

② 9 月 1 日 徳川林政史研究所（対面・オンライン併用）

濃州三ヶ村における新田開発と御山守内木家	仲泉 剛
近世“川合”地域における沼の開発と生業一下野国都賀郡只木村を事例に一	坂本 達彦

③ 10 月 24 日 徳川林政史研究所

鈴木信吉所蔵「鈴木三郎書状」に関する一考察一書状の伝来と由緒意識に注目して一	谷橋 啓太
--	-------

④ 12 月 3 日 徳川林政史研究所（対面・オンライン併用）

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 12 三浦御山見廻りと加子母の人びと』構想研究発表会	太田 尚宏・芳賀 和樹
『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 13 加子母村の人びとと馬一江戸時代の“かしも生活”⑥一』構想研究発表会	萱田 寛也

⑤ 3 月 6 日 上廣倫理財団 UF ホール（対面・オンライン併用）

近世三井大元方の文書管理台帳に関する一考察	寺本 祐子
-----------------------	-------

1910・20年代における農村青年の価値意識と現代社会化

—都市近郊農村・共同作業を事例に—

樋浦 豪彦

名古屋の呉服商伊藤屋における別家の創設と継承

松本 日菜子

明治初年における石河家の「独立藩列」運動

林 幸太郎

尾張家臣団展を観て—雑感と展望

渋谷 葉子

(イ)『金鯪叢書』第53輯(『研究紀要』第60号)の公刊

日光社参時「宿城」の構造と儀礼—将軍家慶の「宿城」に見る江戸城本丸御殿—

深井 雅海

近世“川合”地域における沼の開発と生業—下野国都賀郡只木村を事例に—

坂本 達彦

幕末弘前藩におけるウルシ木増植政策をめぐる問題と対応—十三町の並木植林を中心に—

萱場 真仁

北海道八雲における侯爵徳川義親とその周辺

藤田 英昭

[研究ノート] 濃州恵那郡加子母村内木家にみる山村社会と酒

—宝暦一三年「御山方御用并諸事日記」を素材として—

佐藤 孝之

[研究ノート] 濃州三ヶ村における新田開発と御山守内木家

—山野の開発をめぐる—

仲泉 剛

[研究ノート] 鈴木信吉所蔵「鈴木三郎書状」について

—書状の伝来と鈴木三郎伝承に注目して—

谷橋 啓太

[史料紹介] 尾張徳川家の家臣における将軍謁見の過程

—宝暦一三年の御暇御礼を事例に—

萱田 寛也

[書 評] 萱場真仁著『林政史ブックレット・尾張藩の林政と森林文化 10

木材生産を支える人びと』

脇野 博

徳川林政史研究所編『礼物軌式』『儀物軌式』

白根 孝胤

[新刊紹介] 柴崎茂光編著『林業遺産へ行こう

自然の力を活かす、昔の知恵を再発見』

栗原 健一

『金鯪叢書』第52輯(『研究紀要』第59号) 寄贈・送付業務

印刷部数 550 冊(うち、寄贈・交換 484 冊)

(ウ) 所蔵史料の編集・刊行

『史料纂集 儀物軌式』(八木書店)の刊行

(エ) 史料調査の成果公開(ブックレット、史料集の刊行)

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 12 三浦御山見廻りと加子母の人びと』の編集・刊行

『林政史ブックレット 尾張藩の林政と森林文化 13

加子母村の人びとと馬—江戸時代の“かしも生活”⑥—』の編集・刊行

『内木家文書 明和八年「御山方御用并諸事日記」』の編集・刊行

(4) 「尾張徳川史」編纂準備:「事蹟録」データベース作成(完了)

(5) 尾張徳川家関連資料の調査・研究:古写真の研究・保全に資するため、アルバム所収古写真のデジタルデータ化を実施

(6) 史料調査

(ア) 林政史アーカイブズ調査

① 岐阜県中津川市加子母地域史料調査

(a) 6月13日～16日、(b) 10月3日～10月6日、(c) 3月13日～16日

② 名古屋市市政資料館所蔵史料調査 9月9日～11日

③ 木曾古文書館所蔵史料調査 6月26日、2月16日～17日

(イ) 研究資料(複写・写真撮影資料を含む)の調査・収集

① 犬山城白帝文庫所蔵史料調査 ①7月5日～7日、②11月29日～12月1日

② 名古屋市蓬左文庫所蔵史料調査

12月13日

- ③ 八雲産業株式会社八雲事業所所蔵史料調査 8月27日～29日
- ④ 古河歴史博物館所蔵史料調査 11月21日
- ⑤ 名古屋市市政資料館所蔵史料調査 2月12日～13日
- ⑥ 東京都文京区個人宅史料所在調査（八雲産業株式会社と連携） 10月15日・11月7日
- (ウ) 収集史料データの整理および公開
金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵史料収集データ紙焼き製本の公開 約60点
- (エ) 林政・林業関係史料データベースの構築・公開
全国の他機関所蔵林政・林業関係史料情報について、下記機関の所蔵史料データベースを作成・公開した。また、各所蔵機関の協力を得ながら、出典として各所蔵機関の目録データのリンク付けもおこなった。
- ・長野県 長野県立歴史館 約 350点
 - ・新潟県 長岡市歴史文書館 約 110点
 - ・愛知県 名古屋市鶴舞中央図書館 約 45点
 - ・大分県 大分県立図書館 約 10点
 - ・大分県 大分県立先哲史料館 約 10点
- (7) 調査・研究における他機関との連携・協力
- (ア) 名古屋市蓬左文庫
徳川林政史研究所所蔵史料の一部を紙焼き及びデジタルデータで提供し、名古屋市蓬左文庫での閲覧利用に協力した。
- (イ) 犬山城白帝文庫
犬山城白帝文庫と研究協力に関する覚書を取り交わし、調査・研究にあたった。研究所研究員（萱田寛也）が同文庫主催の古文書講座（古文書を読む2）に出講した。
- (ウ) 徳川記念財団
徳川宗家文書（受託史料）に関する下記の業務を実施した。
- 2025年5月30日 史料閲覧（国朝記ほか 28件）
 - 2025年11月10日 史料移動（静嶽館書画并茶器目録ほか 6件）
 - 2026年1月30日 史料閲覧（源氏物語新釈惣考 55冊）
 - 2026年1月13日 史料移動（大樹宛ちか子書状ほか 3件）
- (エ) 愛知県公文書館
愛知県史編さん委員会が、県史編さんのために収集した林政史研究所所蔵史料の紙焼き（データ点数11,356点）を公開し、愛知県公文書館での閲覧利用に協力した。
- (オ) 名古屋城調査研究センター
名古屋城調査研究センターと史料集刊行の覚書を交わし、同センター編『国秘録 旧事帳・蓬左遷府記稿』刊行に協力した。

2. 史料・図書の整理

(1) 所蔵史料の整理

- ① 松本領文書の整理・目録作成（総数約90件の目録を作成）、② 竹腰文書の整理・目録作成（総数約10件の目録を作成）、③ 千賀家文書の整理・目録作成（総数58件の目録を作成）、④ 美濃国岩田村文書の整理・目録作成（総数557件の目録を作成）、⑤ 信州関係史料の整理・目録作成（総数88件の目録を作成）、⑥ 美濃国関係史料の整理・目録作成（総数約700件のうち、557件の目録を作成）、⑧ 伊勢国関係史料の整理・目録作成（総数約500件のうち、157件の目録を作成）、⑨ 徳川林政史研究所収集史料の整理・目録作成（総数約6,400件のうち計770件の目録を作成）、⑩ 愛知県史筆写史料の整理・目録作成（総数900件のうち計900件の目録を完成）、⑪ 尾張文書の整理・目録作成（総数約100件のうち計11件の目録を作成）

(2) 所蔵史料の目録刊行

石河家文書目録(十七) 目録を『金鯢叢書』第53輯(『研究紀要』第60号)に収録刊行した。

(3) 所蔵史料データベースの構築および保存

(ア) 所蔵史料データベースの構築: ① 石河家文書のデータベース化(総数約9,700件のうち、369件のデータを入力し、9516件まで完成)、② 愛知県史筆写史料のデータベース化(総数900件のうち、900件のデータを入力・完成)

(イ) 目録データベースの検索・活用方法ならびに公開体制(ホームページでの検索システム構築)の検討: 石河家文書目録をHP上に公開した。

(4) 史料のデジタルデータ化

(ア) 所蔵古写真(アルバム所収分)のデジタルデータ化(299点)

(イ) 所蔵史料のデジタルデータ化

① 外部委託: デジタル撮影(図録用)1,505カット、デジタル撮影(文書)(『諸事留帳(須原宿)』、『八雲農場日記』他計3,397カット

② 自館でのデジタルデータ化(デジタルマイクロリーダープリンター導入による): 「千村雑記」・「白鳥官府姓名人数記」など、8,851コマ

(ウ) 調査収集史料写真のデジタルデータ化

① 岐阜県中津川市加子母地域史料(デジタルデータ 10,280 コマ)

② 名古屋市市政資料館所蔵史料(デジタルデータ 6,700 コマ)

③ 木曽古文書館所蔵史料(デジタルデータ 680 コマ)

④ 犬山城白帝文庫所蔵史料(デジタルデータ 4,460 コマ)

⑤ 八雲産業株式会社八雲事業所所蔵史料(デジタルデータ 819 コマ)

(5) 史料の購入・補修(活動支援基金)

(ア) 購入: 史料購入なし

(イ) 補修: 未実施

(6) 書庫内の整理ほか保存環境の保全

重複図書の確認およびリポジトリ掲載雑誌の確認作業をおこない配架を見直すなど、書庫内整理の準備を進めた。また、書庫内照明器具の修理を順次行った。

(7) 研究用図書の整理

(ア) 図書整理: 昨年度に引き続き、図書・雑誌のコンピューター入力を進め、新着図書603冊に対し、ラベル貼付並びに入力作業を行った。

(イ) 図書の購入・受贈

図書は『下伊那史』等58冊を購入。その他寄贈された図書161冊。

雑誌は『歴史学研究』等117冊を購入。その他寄贈された雑誌267冊。

3. 教育・普及

(1) 講座・講演

(ア) 徳川林政史研究所公開講座・豊島区教育委員会共催

① 知られざる名君 山村良由〜『良由公日記』にみる治世と人となり〜 萱場 真仁(9月)

② 江戸勤番武士の名所巡り〜日記史料にみる地方武士の遊び方〜 仲泉 剛(9月)

(イ) 徳川美術館「江戸学講座」

① 尾張家臣団の概要 深井 雅海(12月)

② 尾張家重臣と将軍家 萱場 真仁(1月)

③ 尾張家臣が残した記録を読む 萱田 寛也(1月)

④ 近代尾張旧藩士族の群像 藤田 英昭(2月)

(ウ) 歴史講演会・加子母むらづくり協議会 NPO 法人かしもむら共催

江戸時代の加子母村にみる“酒とつきあい”

一宝暦十三年『御山方御用并諸事日記』よりー

佐藤 孝之 (3月)

(エ) 第六回鷺ノ巣愛林農業協同組合研修会出講

「明治の殿様たちと北海道」

林 幸太郎 (8月)

(オ) その他の講演

(深井 雅海)

① 松平定信の老中就任と江戸城ー一橋治済の動向とともにー

(白河市合併 20 周年記念令和 7 年度白河市立図書館郷土講演会) (9月)

② 将軍の佩刀と来国光の脇差 徳川美術館来国光プレス発表会 (10月)

③ 将軍権威と殿中儀礼一年頭御礼の仕組みを中心にー 柳営会第 44 回懇親会 (11月)

④ 田沼意次の時代ーその始期・郡上騒動一件に果たした役割ー 学習院さくらアカデミー (3月)

(藤田 英昭)

① 徳川将軍と御三家 明海大学オープンカレッジ (9月)

② 尾張家 19 代・徳川義親とその活動 坂の上の雲ミュージアム連続講座 (10月)

(萱場 真仁)

① 尾張徳川家の家臣たち ～その出自と個性～

徳川美術館・蓬左文庫開館 90 周年記念展覧会関連講座 (11月)

② 尾張藩林政と山村家～享保林政改革を中心に～ 第 8 回木曾学講座 (12月)

③ 江戸時代の森林政策をめぐる思想・考え～北奥弘前藩領を中心に～

第 3 回比較環境思想研究会 (1月)

④ 天明飢饉と改革政治ー名君たちの群像ー 学習院さくらアカデミー (3月)

(萱田 寛也)

① 忠固をはじめ上田藩の人びとは疫病にどのように立ち向かったか？

市民のための歴史講座 (老中松平忠固と生糸貿易研究会) (9月)

② 古文書からみる成瀬正壽の評判と活動

公益財団法人犬山城白帝文庫 古文書を読む 2 (11月)

(2) 外部機関などとの連携

学習院大学学芸員資格取得課程「博物館実習」受講生・教員 (6月)、東京大学大学院農学生命科学研究科「森林政策学演習」受講生・教員 (12月)、清泉女子大学総合文化学部受講生・教員 (3月)、中京大学文学部歴史文化学科卒業研究ゼミナール (近世史) 受講生・教員、等を受け入れ

(3) ホームページによる情報発信：ホームページを活用して、「内木家御用状留」の所蔵史料画像約 10 点を公開。

(4) 出講・受嘱

(ア) 出講：藤田および萱場が学習院女子大学、学習院大学、大東文化大学に出講

(イ) 受嘱：藤田および萱場が大田区立勝海舟記念館資料収集評価委員会および新十和田市史編さん専門委員会部会業務を受嘱

4. 若手研究者の育成

(1) 非常勤研究員・研究生による研究会の開催

夏季および春季の研究集会は対面およびオンラインを併用した形態で開催。

(2) 非常勤研究員・研究生による史料整理・目録作成作業

夏季および春季の集中史料整理を対面形式で実施。

(3) 非常勤研究員・研究生の名古屋研修の実施

12 月 13 日 徳川美術館・名古屋市蓬左文庫にて実施。

(4) 在宅作業業務

研究協力者が解読・校正した翻刻史料をもとに「御山方御用_并諸事日記」についての史料集を刊行。

5. 閲覧・出陳・レファレンス業務

(1) 史料閲覧

閲覧者数延べ 130 名、出納史料数 1,665 点。

(2) 所蔵史料の出陳

(ア) 「特別展 写された名古屋城」(名古屋城西の丸御蔵城宝館展示室)

会期：令和 7 年 4 月 26 日～7 月 13 日

出陳史料名：名古屋新御殿・名古屋城写真帖など

(イ) 「企画展 あしは、＼何、になろうか」(坂の上の雲ミュージアム)

会期：令和 7 年 3 月 12 日～令和 8 年 2 月 15 日

出陳史料名：教員進退留

(ウ) 「特別展 旅する城主」(城とまちミュージアム)

会期：令和 7 年 10 月 29 日～12 月 2 日

出陳史料名：鸚鵡籠中記 十五など

(3) 所蔵史料写真の貸し出しおよび複写サービス

(ア) 所蔵史料写真の貸出及び複写：受付総件数 計 104 件

(イ) 蓬左文庫受付の二次複写申請：受付総件数 計 5 件 230 枚

(ウ) レファレンス対応：閲覧来所者及び電話でのレファレンスに対応。

6. 補助金関係

(1) 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(特定奨励費)

申請者：(公財)徳川黎明会徳川林政史研究所

研究事業名：近世・近代における持続可能な森林経営に関する調査・研究・普及事業

交付機関：(独)日本学術振興会

交付金額：10,400,000 円

(2) 特定奨励費以外の科学研究費助成事業

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

研究種目：基盤研究(B)(一般)

研究課題名：近世における森林資源コントロールに関する基礎的研究－尾張藩を中心に－

交付機関：国文学研究資料館((独)日本学術振興会)

交付金額：150,000 円

研究分担者：徳川林政史研究所 所員研究員 萱場 真仁

(3) その他の競争的資金及び民間助成金等

助成金名：公益財団法人上廣倫理財団教育・研究・活動助成金

申請者：徳川林政史研究所 所長 深井雅海

事業名：歴史学研究の発展に貢献できる若手研究者の育成

助成機関：(公財)上廣倫理財団

交付金額：5,000,000 円

7. 事業評価委員会の開催

令和 8 年 5 月、外部委員に徳川林政史研究所が実施した令和 7 年度事業についての説明資料を送付し、

紙面評価・講評を実施。

8. 資産の取得

- (1) 什器備品：購入無し
- (2) 図書：購入 58 冊、受贈 62 冊

9. 設備管理

建物・設備の営繕工事等（① 本部建物雨漏り止水工事、②本部建物 3F 空調設備点検・修繕作業、③本部建物 3F 書庫およびトイレ内照明点検・交換作業、④小荷物専用昇降機保守）

10. 活動支援基金

(1) 寄附金受付業務

前年度に引き続き、徳川林政史研究所の実施事業を対象にした募金活動を行った。

本年度の実績は、以下のとおり。

寄附公募期間 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

寄附結果 260,000 円（法人 0 件（0 口）、個人 18 件（26 口））

(2) 寄附金の使途

史料購入（前記 2.（5）①） 寄附金での購入はなし

史料補修（前記 2.（5）②） なし

Ⅲ. 収益目的事業

[収益事業 1] 不動産賃貸事業（本部・総務部）

不動産賃貸：外国人向け住宅の賃貸（全 6 棟）を継続

[収益事業 2] ミュージアムショップ・宝善亭等の運営事業（徳川美術館）

1. ミュージアムショップの運営

（1）夏季特別展開催期間中は、多くの来館者が予想されたため、美術館内講堂を利用した臨時売店を設けた。

その運営は外部に委託し、通常のミュージアムショップに加え、美術館内での販売強化を図った。

（2）収益力強化を図るべく、以下のような諸施策を実施した。

①開館 90 周年を記念したオリジナルグッズの製作・販売、②人気オンラインゲームとのコラボレーショングッズの販売、③刀剣ファンを訴求対象とする「とくびぐみ」グッズ新商品の製作・販売、④東京での期間限定出店の実施（有楽町マルイでのフェス開催）、⑤源氏物語絵巻関連の新商品の製作・販売、⑥地元食品企業とコラボした商品の製作・販売、⑦SNS による積極的な商品告知によるオンラインショップの利用促進、⑧館外他施設での委託販売実施によるグッズの売上促進、等

2. 宝善亭及び THE MUSEUM CAFE の利用促進

宝善亭は、夏季特別展時に人気オンラインゲームとのコラボレーションメニューの販売や、展覧会にあわせた四季折々のメニューを提供しつつ、引き続き利用促進に努めた。THE MUSEUM CAFE では、展覧会のテーマにあわせたスイーツを提供すると共に、ホームページ・SNS 等での広報を積極的に実施した。

事業報告の附属明細書

令和 7 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成していない。